



## 血清アルブミン についてもっと知ろう！

### ➡ 血清アルブミン値は、重要な栄養状態の指標！

血清アルブミンは、血液中のタンパク質の一種で、総たんぱくの約6割を占め、栄養・代謝物質の運搬、浸透圧の維持などの働きを行います。栄養状態を評価する際、低栄養に陥っていないかどうかを調べる指標となるものです。

NSTではアルブミン値 3.5g/dl以下(基準値 3.8g~5.3g/dl)を栄養不良とみなし、栄養状態改善のためのアプローチを行っています。

### ➡ 血清アルブミン値でわかるのは、3週間前の栄養状態！

血清アルブミン値は、血球半減期が14~21日と長く、変動がゆるやかで、長期の栄養状態を反映しています。つまり、「今」の栄養状態を如実に示すものではなく、およそ3週間前の値ということになります。

### ➡ アルブミン値が低下する原因は 低栄養だけじゃない！

栄養因子以外の他の疾患より起こる可能性もあり、総合的に栄養問題をみつけることが重要です。



#### 肝機能障害による低下

血清アルブミンは、肝細胞のみで作られ血液中に存在しています。何らかの異常で肝機能が低下すると、肝臓のアルブミンをつくる能力が低下するため、血液中の数値が下がります。この場合、**γGTP・GOT・GTPの上昇、コリンエステラーゼ・総コレステロール・血小板の低下等**がみられます



#### タンパク質の喪失による低下

腎不全・ネフローゼ症候群・広範囲熱傷等による腎臓や体表面からのアルブミン漏出、胸水や腹水貯留による体内へのアルブミン貯留により、アルブミン値が低下します。



#### タンパク質の消費量増大による低下

体のどこかで炎症が起こると、炎症部分局所でアルブミンの消費増大が起こり血清アルブミン値が低下します。手術後や感染などの侵襲が加わっている状況では、アルブミン値が急速に低下することがあります。

→**CRPを同時に測定し、疾患による影響を考慮します**



#### 脱水により、上昇することがあります

血液が濃縮することにより、見かけ上、アルブミン値が上昇します。

アルブミン値以外にも、ヘモグロビンやNa.Clなど脱水を示す値があわせて高値になることが多いです。

短期の栄養評価には  
**RTP**が有用！

RTPは現在の栄養状態に敏感に反応する血漿蛋白です。

RTPの種類には、

- ◆プレアルブミン
- ◆レチノール結合蛋白
- ◆トランスフェリン

があり、0.5日~7日の栄養状態が判断できます。